

【開催レポート】  
**エシカル・ラボ in 京都**

～あなたの消費が世界の未来を変える～



平成 31 年 3 月 9 日（土）、消費者庁、京都府、京都市が主催する「エシカル消費」の普及・啓発シンポジウム「エシカル・ラボ in 京都」を開催しました。第 7 回を迎えた今回の「エシカル・ラボ」では、府内の事業者や民間団体、学生など、多様な主体との連携により、シンポジウムのほか、展示・販売、ワークショップ、市内でのスタンプラリー、イオンモールでの啓発イベントなどを実施し、府民を始め、多くの皆様に「エシカル消費」を知っていただく機会となりました。

【普及・啓発シンポジウム「エシカル・ラボ in 京都」】

シンポジウムは、消費者庁の高島審議官と、京都市の村上副市長による開会挨拶で始まった後、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの若手芸人ネイビーズアフロのお二人をお迎えし、今回のために御準備いただいた「エシカル消費」に関する漫才を披露していただきました。身近な行動を例にとりながら、「エシカル消費」の実践方法を漫才で語っていただき、会場を大いに盛り上げていただきました。



消費者庁高島審議官



京都市村上副市長



「エシカル消費」をテーマに会場を盛り上げて頂いたネイビーズアフロの皆川氏(左)・はじり氏(右)

基調対談では、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの文化人でバーベキュー芸人のたけだバーベキュー氏をゲストに迎え、（一社）エシカル協会の末吉里花氏の進行の下、『「エシカル消費」ってなんなんだ』をテーマに和気あいあいとした対談が展開されました。たけだバーベキュー氏が全国で実施している出張バーベキューのお話の中では、地元の旬の野菜を食べることや、できるだけゴミを出さない食べ方など、様々な「エシカル消費」につながる行動例があり、末吉氏の分かりやすい解説と共に、人・環境にやさしいバーベキューの仕方が紹介されました。対談の最後には、日々の生活の中で、自分が大切にしたい「マイエシカル」を見つけてほしいとの呼び掛けがありました。



たけだバーベキュー氏の活動と「エシカル消費」について語るお二人



末吉里花氏



たけだバーベキュー氏

続いて、府内の学生たちによる取組発表が行われました。京都府立木津高等学校からは、持続可能な社会の創り手となることを目指した活動について発表があり、企業を招いてのワークショップや、地元で「エシカル消費」を普及させるための3か年のプロジェクトなどについて紹介されました。ノートルダム女学院中学高等学校からは、貧困問題をなくすためフェアトレードの普及を目指すプロジェクトについて、実際に活動する4名の学生から、取組への想いを発表いただきました。京都造形芸術大学に所属する学生たちの有志グループ「P-HOME」からは、活動紹介と共に、京都や世界が抱える課題に対し、一人一人が向き合い、行動に移すことが重要であるという力強いメッセージが発信されました。



動画で活動を紹介する京都府木津高等学校の生徒たちと情報企画科学科長の鹿俣拓也氏



ノートルダム女学院中学高等学校 グローバル英語コース長の中村良平氏と取組を発表する4名の学生



京都造形芸術大学の学生グループ「P-HOME」を代表して発表した谷野真吾氏(左)と岸田勇人氏(右)

華道「未生流笹岡」家元の笹岡隆甫氏による「いけばなパフォーマンス」では、大きな枝や美しい花々が、丁寧かつダイナミックにいけられ、会場を魅了しました。その後の「DO YOU ETHICAL? 京都からの発信」の三者対談では、笹岡氏に加え、京都を拠点にフェアトレードショップを運営する(有)シサム工房の代表取締役水野泰平氏、コーディネーターとして京都大学大学院法学研究科准教授のカリスコス アントニオス氏に御登壇いただき、文化人、事業者、教育者それぞれの立場から、「エシカル消費」に対する姿勢や日々の活動の中で取り組んでいることについてお話をいただきました。



華道「未生流笹岡」家元の笹岡隆甫氏による「いけばなパフォーマンス」



自然の恵みに対する感謝や同じ世界に生きる誰かを思いやる気持ちについて語られた対談

最後には、消費者庁の高島審議官、消費者ホットライン188キャラクター「イヤヤン」、京都市の村上副市長、京都府広報監の「まゆまる」の立会いの下、京都府の山内副知事による「京都エシカル宣言」が行われました。未来につながる消費行動を、京都から世界に発信していくと力強い宣言がされた後、次回開催地である石川県にエシカルバトンが引き継がれ、石川県の飴谷生活環境部長から、来年度の開催へ向け、県内でのエシカル消費の普及を一層推進していくとの意気込みが述べられました。



「京都エシカル宣言」の様子と、バトンを引き継ぐ京都府山内副知事(左)と石川県飴谷生活環境部長(右)

シンポジウムの会場には、府内の事業者や民間団体、学生団体による展示・販売コーナーを設け、府内の「エシカル消費」に関する様々な取組を御紹介しました。



来場者でにぎわう展示コーナー



フェアトレード雑貨や地場野菜などが販売された物販

### 【関連イベント】

関連イベントとして、3月7日(木)にイオンモール京都桂川で「未来を想うお買い物講座」を実施しました。また、3月9日(土)のシンポジウム開催前に、「エシカル消費」に関連するラベルについて学ぶ子供向け啓発ワークショップ「世界を変えるスーパーヒーローになろう！」と、府内の事業者や民間団体による、工作や紙芝居、クイズなどのワークショップを実施しました。



約 30 名の参加者を迎えたイオンモールでの講座



京都府内の事業者や民間団体がワークショップを実施



(一社)エシカル協会認定エシカル・コンシェルジュの方々に御協力いただき開催した子供向けワークショップ



さらに、3月1日(金)~3月10日(日)には、「エシカル消費」に関わる事業を府内で展開する事業者に御協力を頂き、「エシカル・ラボ週間」スタンプラリーを実施しました。期間中、対象店舗でのお買物や3月9日(土)に京都テルサで実施したワークショップに御参加いただいた方に、フェアトレード認証のオリジナルエコバッグをプレゼントしました。

インドで生産されたフェアトレードのエコバッグ。  
対談「DO YOU ETHICAL?京都からの発信」で  
ご登壇いただいた水野氏の経営する有限会社  
シサム工房に製作いただきました。



シンポジウムには約 250 名の方に御来場いただきました。参加者からは「日常生活にエシカル消費の視点を取り入れるためのヒントを頂いた」、「若者も含め、オール京都で取り組んでいることがうかがえた」という感想や、「どんどん進めるべきだと思った」という御意見など、今後の京都における「エシカル消費」の広がりが期待される多くの声を頂きました。

消費者庁では、今後も、全国の地方公共団体はもちろん、事業者、民間団体、学生など、多様なステークホルダーとの連携により、「エシカル消費」の普及・啓発活動に取り組んでまいります。



「エシカル消費」は、2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)のゴール12に関連する取組です。また、SDGsの推進には、ゴール17で掲げられた“パートナーシップ”が重要です。今回の「エシカル・ラボ in 京都」の実施に当たっても、登壇者の皆様に加え、京都府内の事業者や大学生、京都エシカル消費推進ネットワーク、「笑い」を通じてSDGsの推進に取り組む吉本興業株式会社等、幅広い御協力をいただいています。

